特集 外装材（下）

進化した新生・光セラ18

深彫りや色40年品質

ケイミュー

ケイミュー（大阪市、木村均社長）は、窯業系サイディングや金属サイディング、屋根材を製造・販売するほか、パナソニック製雨どいなどを販売する外装建材メーカーのリーディングカンパニーだ。

新生・光セラ18の「ネオロック・光セラ18 ラウンドウェーブ」

同社は3月、「外壁ルネサンス」として、これまでの窯業系サイディング「光セラ」を進化させた新生「光セラ18」を市場に投入した。

新生・光セラ18の1つ目の特徴は、2ミリの違いで生まれる深い凹凸の造形だ。業界標準の16ミリ厚に2ミリ増して18ミリ厚にすることで、深彫りの意匠を表現。外壁に表情豊かな陰影が生まれ、重厚感と高級感が増す。

また、厚さと軽量化を同時に実現できる中空構造の「ネオロック」基材を採用し、職人の施工負荷軽減にも配慮している。

2つ目は、以前の光セラの「光触媒コート」「セラミックコート」のダブルガードにさらに1層、紫外線から守る「高耐候性コート」を追加し、トリプルガードとした点。これにより、耐候性は以前の色30年品質から、色40年品質となり、さらに色あせ・日焼けに強くなった。

3つ目は、光触媒工業会（PIAJ）の「抗ウイルス・抗菌」の認証を新たに取得したことで、清潔な壁で住まいに安心感を届ける。

新生・光セラ18は、こうした3つのデザイン・機能アップを実現しながら、価格は16ミリ厚品と同じに据え置いた。

同製品のなかでも、3月に新柄として発売した「ネオロック・光セラ18焼杉調」は、炭化度合いの異なる2種類を表現した見た目や凹凸が本物の焼杉のようで、発売後の反響が大きい。同社では来春、現在18柄である新生・光セラ18の品ぞろえを大幅に増やす方針だ。

また、フルカラーセラジェット塗装で異なる素材を再現し、本物感のある意匠に仕上げた16ミリ品「ネオロック・光セラ16セラトピアフィエルテ」は、2019年の発売当初から市場で高い人気を博している。3月には4つの素材（ホワイトマーブル、大谷石、ウォールナット、コールテン）をモチーフにした新色を追加し、バリエーションの充実を図った。

3月にはさらに、セメントの素材感を生かした窯業系建材「SOLIDO type FLAT」の用途に屋内床を追加した。

デネブエアルーフ、全国発売へ

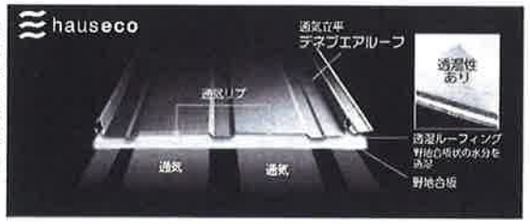
野地の含水率低く、腐朽を抑止

ハウゼ『

住宅用換気部材メーカーのハウゼコ（大阪市、神戸睦史社長）は11月、新開発の通気立平「デネブエアルーフ」を全国発売する。

同製品は「50年以上の屋根」を目指して同社が開発した画期的な屋根システムだ。これまでの立平は、野地板に密着していたため、金属屋根の防水層の下野地板が腐朽しやすく、軒先では雨水の毛細管現象による変色などが起きていた。同製品は、立平の通気リブ構造により野地板上に通気が生まれる。そのため、野地の含水率を低く維持し、木材腐朽菌の繁殖を抑える。

また、透湿ルーフィングとの組み合わせで、万一、野地板が濡れても速やかに乾燥する。さらに、軒先からの毛細管現象による水の吸い上げも防止する。そして、軒先換気部材、通気立平用デネブ、通気立平用換気棟により、野地板上の通気、小屋裏の換気を行う。通気立平デネブを付けることで、空気を正面ではなく下から入れるため、風でめくり上がる問題も解決した。これまでと同じ施工性で、換気部材の取り付けも素早くできることも特徴だ。



通気立平デネブエアルーフの断面図

同製品は1月から近畿限定で販売を始めた。9月には同社加西工場（兵庫県加西市）に大量生産型のロールフォーミングを設置し、長さを6メートルから10メートルに拡大するほか、生産量も増加。11月から全国に販売する。

そのほか、パラペット用換気部材付き笠木板金「AHPCⅡ（EPDMシールレス）」は、雨仕舞緩衝材としてシーリングの代わりにEPDM（エチレンプロピレンゴム）を使用。シーリング工事店から好評だ。

耐久性大百科事典Ⅱ発刊

ハウゼコも加盟する住まいの屋根換気壁通気研究会（神戸睦史理事長）は、7月に「住まいの耐久性大百科事典Ⅱ」を発刊した。第1巻で収録できなかった住宅外皮の基礎知識や耐久性のポイントをさらに深掘りし、内容を充実した。また、同研究会は9月から国内初の住宅外皮マイスター資格制度の講習会と試験の申し込みを受け付ける。同制度は、木造住宅外皮の設計、工事、資材製造・供給、研究に携わる技術者が備えるべき知識と技術力のレベルを明確にし、住宅の品質向上に資する有用な人材の育成と確保に貢献することを目的にしている。

サイディング施工、前年並み維持

20年に親会社から分離

ナカザワワークス

ナカザワワークス（大阪府和泉市、中井紀一社長）は2020年4月、ナカザワ建販（同、中澤秀紀社長）の工事部門が分離する形で本格始動した。外装材や住宅設備の施工工事に加え、親会社が所有する貝塚サイディングプレカット工場（大阪府貝塚市）での加工業務も担っている。1期目となる20年度のサイディング施工は、コロナ禍の厳しい環境にもかかわらず、1274戸と19年度並みを維持した。

20年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で6～7月のサイディング受注量が前年同期比で約30%減少した。しかし、8月には感染防止対策の普及などから復調し始め、年度後半は好調に推移して挽回した。また、アパート物件が戸建て物件の伸び率を上回り、戸数の伸びこそ見られなかったものの、工事面積や収益はいずれも前年度比で増加した。

20年度のサイディング施工のうち、サイディングプレカットは462戸で、前年度比ほぼ横ばいに終始した。サイディングプレカットを受け入れる住宅会社は依然少なく、加工先は分譲系5社、注文系1社の計6社と、分譲系の1社増にとどまった。ただ、職人不足を背景に、サイディングプレカットの必要性を理解する住宅会社は徐々に増えており、21年度は施工依頼が増加傾向にある。

貝塚サイディングプレカット工場の作業風景

↙ 度の目標は、サイディング施工1440戸だ。そのうちサイディングプレカットは513」（宮川工機）が1基、幅切り機、斜め切り機、接着機などからなる窯業系外壁出隅接着加工ライン（山本ビニター）が1基。21年度は設備投資として、接着機増設と自動剛付け機導入を検討している。また、社内職人の育成と、現在75人を数える職方のさらなる増強を継続的に進める考えだ。

21年 ↖

サイディングPCを開始

材工販売強みに効率化

北恵

北恵（大阪市、北村良一社長）は、東日本テクニカルセンター（さいたま市岩槻区）で稼働し、現在は月間10棟前後の受注が定着してきた。

職人目線を取り入れ、効率化を実現している

サイディングPCを管掌する東日本営業部では、ハウスメーカーやビルダーなどから月間500棟前後の外壁工事を受注している。

サイディングPCニーズに応えるため、高周波接着機、出隅加工機、面取り加工機を設備し、昨年9月にPCの試運転を始めた。システムは北洲HSPを採用している。

同事業では、同社の材工販売の強みが生きた。これまでの工事ノウハウや実績を生かし「職人の目」を取り込むことで、サイディングPCの最適化や効率化につなげている。

サイディングPC事業の開始に当たり、外壁工事職人で現場採寸チームを組んだ。職人を採寸チームに配置することで、より精度が高く、的確な採寸を可能とし、加工図面に落とし込む。これにより、施工時に加工部材が合わない事態を防ぎ、現場採寸から加工図面作成までの作業の効率化につなげている。

さらにPC加工時にも「職人視点」を盛り込み、納まりを考慮した柄合わせなど、施工に最大限配慮したPC加工とすることで、フルプレカットを実現している。

こうした取り組みで、施工時間の短縮による職人の稼働率の向上、さらには「雨の日でも工場で加工ができる」（同社）と、PC加工ならではのメリットが出てきた。

現場の騒音や粉じん問題が解消できることから、PC受注のリピート率も高いという。現在、採寸チームは5人で1チームとしており、採寸能力は月間15～20棟。一方、PC加工能力は最大で月間50棟で、同40棟前後（1物件30坪程度、1シフト・20日稼働）が適正と見ている。採寸チームを中心に人材育成を急ぎながら、PC受注を拡大したい考えだ。

非住宅分野に挑戦

廃材処理の利点訴え

ランドハウス

鉄鋼製品の加工販売を展開する島屋グループ（広島市）のランドハウス（広島県廿日市市、吉貴隆人社長）は、広島を中心とする山陽エリアで屋根材、外壁材の施工販売や付帯工事の設計施工でトップクラスの規模を誇る。深刻化する職人不足への対策のため、2019年に富国物産（長野市）のサイディングプレカット（PIC）機「FBシステム・デジタル」を中国地方で初めて導入し、断熱材の切り出しから、サイディングプレカットの新